

医療的ケアが必要な人への支援の充実について

1 令和7年度の実施内容

時期	内容
令和7年 5月	○医療的ケア児支援ハンドブック改訂について各支援機関に周知、ハンドブック既存ページの修正及び追加ページ作成への協力依頼
6月	○医療的ケア児保護者交流会(あした天気になあれ。の会)開催[6/19] ○保護者と各支援機関にハンドブック改訂に向けた意見の聞き取り
8月	○保護者等より聞き取りした意見を踏まえ、ハンドブック既存ページの修正及び追加ページの作成依頼 ○医療的ケア児等支援講演会開催(保護者交流会同時開催)[8/18]
10月	○各支援機関にハンドブック追加ページの内容確認依頼
11月	○市有施設におけるユニバーサルシート設置状況調査 ○医療的ケア児保護者交流会(あした天気になあれ。の会)開催[11/26]
12月	○各支援機関にハンドブック既存ページの原稿確認及び追加ページの最終原稿確認依頼
令和8年 1月	○各支援機関にハンドブック既存ページの最終原稿確認依頼
2月	○明石市医療的ケア児等支援協議会開催予定[2/26]
3月	○医療的ケア児保護者交流会(あした天気になあれ。の会)開催予定[3/13] ○ハンドブック改訂版配布予定

2 医療的ケア児等相談窓口について

(1) 実施目的

医療的ケア児及びその家族が抱える課題は多岐にわたっており、病態や障害等も個別性が高く複雑化している。今後も住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けることができるよう、医療的ケア児等及びその家族に対する相談支援や、各支援関係機関との相互連携を行うことにより、切れ目ない支援体制を構築する。

(2) 相談方法

①来所相談 ②訪問相談 ③オンライン相談 ④電話相談

(3) スタッフ

障害福祉課保健師1名と委託看護師1名の2名体制

(4) 相談実績

別添資料「医療的ケア児等相談窓口実績」のとおり

3 医療的ケア児等支援講演会について

(1) 開催目的

医療的ケアを必要とする方の声や生活について、市民や支援関係者の方など、たくさんの方に知っていただき、理解を深めることを目的とする。また、医療的ケアを必要とする方とご家族にとって、同じ境遇の方や支援関係者との情報交換の機会となるよう交流会も同時開催する。

(2) 開催日時

令和7年8月18日(月) 13時30分～16時30分

(3) 実施方法

現地参加と後日オンデマンド配信

(4) 開催場所

兵庫県立大学明石看護キャンパス講堂及び多目的ホール

(5) 内容

第一部：医療的ケアを必要とする方の声を聴いてみよう

- ① 学生企画
- ② 医療的ケア児の立場から
- ③ 医療的ケア者家族の立場から

第二部：行政・大学の取組

- ① 兵庫県医療的ケア児支援センターの取組
- ② 明石市障害福祉課の取組
- ③ 大学の取組

第三部：当事者・家族・支援関係者交流会

(6) 参加状況

別添資料「医療的ケア児等支援講演会の参加状況」のとおり

4 医療的ケア児保護者交流会「あした天気になあれ.の会」について

(1) 実施目的

在宅生活を送る医療的ケア児の保護者がより身近な地域で集まり、日常生活に役立つ情報を共有するとともに、悩みや不安を先輩保護者に相談する等、保護者同士の交流できる場を設ける。

(2) スタッフ

兵庫県立大学看護学部教員、障害福祉課職員、委託看護師

(3) 実績

日時	内容	参加人数	実施方法
R7.6.19 (木) 10:00~12:00	①講演「医療的ケア児の保育所・幼稚園の入園について」「医療的ケア児の学校生活や進路について」 講師：明石市こども局こども育成室職員 明石市教育委員会学校教育課職員 ②茶話会	(保護者) <u>9組10名</u> (医療的ケア児) <u>1名</u>	対面+オンライン (会場：ふれあいプラザあかし西3階食事室)
R7.8.18 (月) 15:30~16:30	医療的ケア児等支援講演会と同時開催	(当事者・家族・支援関係者) <u>51名</u>	対面 (会場：兵庫県立大学明石看護キャンパス多目的ホール)
R7.11.26 (水) 10:00~12:00	① 講演『「親」は少しだけお休みして『私(自分)』と再会する時間~ケアや育児を少し脱いで、かけがえのない『あなた』を感じてみませんか?~』 講師：たかみやこころのクリニック 岡田由美子氏(臨床心理士) ② 茶話会	(保護者) <u>5組6名</u> (医療的ケア児) <u>1名</u>	対面 (会場：ウィズあかし学習室803)

5 医療的ケア児等支援協議会について

(1) 実施目的

個々の医療的ケア児のライフステージに応じた切れ目のない連携と情報共有の仕組みを構築し、総合的な支援施策を検討する。

(2) 開催日時

令和8年2月26日(木) 13時30分~15時30分(予定)

(3) 構成メンバー

学識経験者、保健・医療関係者、福祉関係者、教育関係者、障害当事者団体、行政関係者

(4) 協議内容

市や関係機関の医療的ケア児支援に関する取組報告など

6 その他(令和8年度の主な取組予定)

- (1) 医療的ケア児等支援者研修会の開催 (新規)
- (2) 医療的ケア児等相談窓口での対応 (継続)
- (3) 医療的ケア児等支援協議会の開催 (継続)
- (4) 医療的ケア児保護者交流会の開催 (継続)

医療的ケア児等相談窓口実績①

R6.10.1開設

◆相談延件数

(件)

年度	来所相談	訪問相談	オンライン相談	電話相談	計
R6	4	2	1	0	7
R7	1	5	0	1	7
計	5	7	1	1	14
構成比	35.7%	50.0%	7.1%	7.1%	100.0%

(令和7年12月末現在)

◆相談者（重複あり）

(名)

年度	父	母	祖父	祖母	その他	計
R6	1	7	0	0	0	8
R7	2	7	0	0	0	9
計	3	14	0	0	0	17
構成比	17.6%	82.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

(令和7年12月末現在)

◆相談回数

(回)

年度	初回	2回目以降	計
R6	6	1	7
R7	7	0	7
計	13	1	14
構成比	92.9%	7.1%	100.0%

(令和7年12月末現在)

◆相談内容（重複あり）

(件)

年度	保健	医療	福祉	保育所・幼稚園	学校・教育	家族支援	社会環境	災害対応	その他	計
R6	3	5	4	4	2	3	0	0	0	21
R7	0	2	2	5	2	2	1	0	0	14
計	3	7	6	9	4	5	1	0	0	35
構成比	8.6%	20.0%	17.1%	25.7%	11.4%	14.3%	2.9%	0.0%	0.0%	100.0%

(令和7年12月末現在)

医療的ケア児等相談窓口実績②

◆対象児の性別

(名)

年度	男児	女児	計
R6	6	1	7
R7	4	3	7
計	10	4	14
構成比	71.4%	28.6%	100.0%

(令和7年12月末現在)

◆対象児の年齢

(名)

年度	未就学児	小学生	中学生	高校生	計
R6	7	0	0	0	7
R7	6	1	0	0	7
計	13	1	0	0	14
構成比	92.9%	7.1%	0.0%	0.0%	100.0%

(令和7年12月末現在)

◆医療的ケアの種類（重複あり）

(件)

年度	①人工呼吸器	②気管切開	③鼻咽頭エアウェイ	④酸素療法	⑤吸引	⑥ネブライザー	⑦経管栄養	⑧中心静脈カテーテル	⑨皮下注射	⑩血糖測定	⑪継続的透析	⑫導尿	⑬排便管理	⑭痙攣時の対応	計
R6	0	0	0	2	1	0	2	0	0	0	0	0	1	4	10
R7	2	2	0	2	1	2	3	0	0	0	0	1	1	1	15
計	2	2	0	4	2	2	5	0	0	0	0	1	2	5	25
構成比	8.0%	8.0%	0.0%	16.0%	8.0%	8.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	8.0%	20.0%	100.0%

(令和7年12月末現在)

医療的ケア児等支援講演会の参加状況

(令和7年8月18日開催)

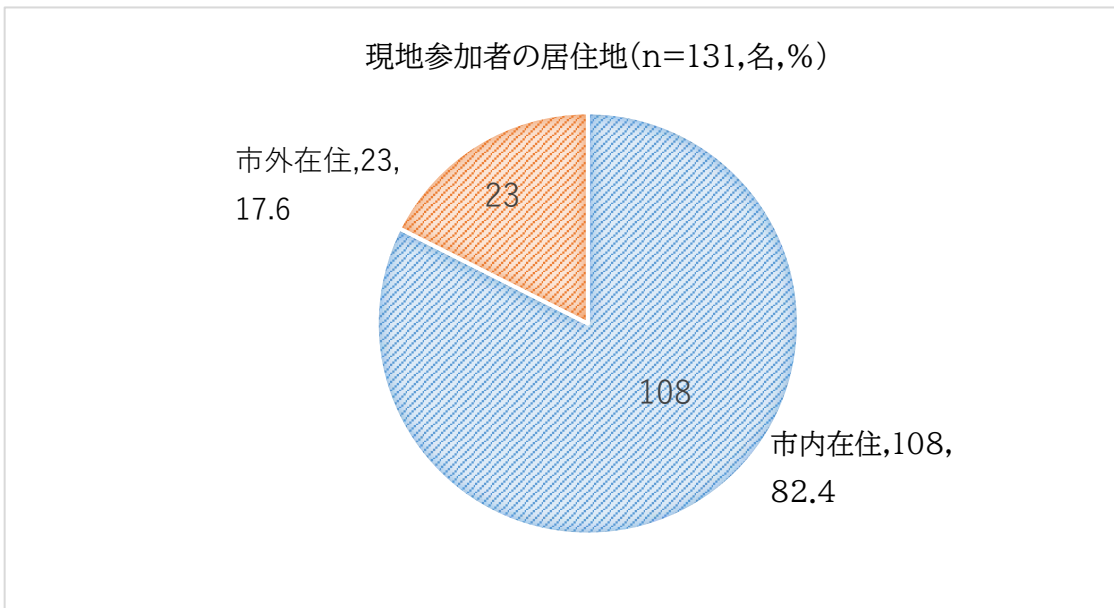
1 参加者数

○現地参加者：131名

○オンデマンド配信者：142名

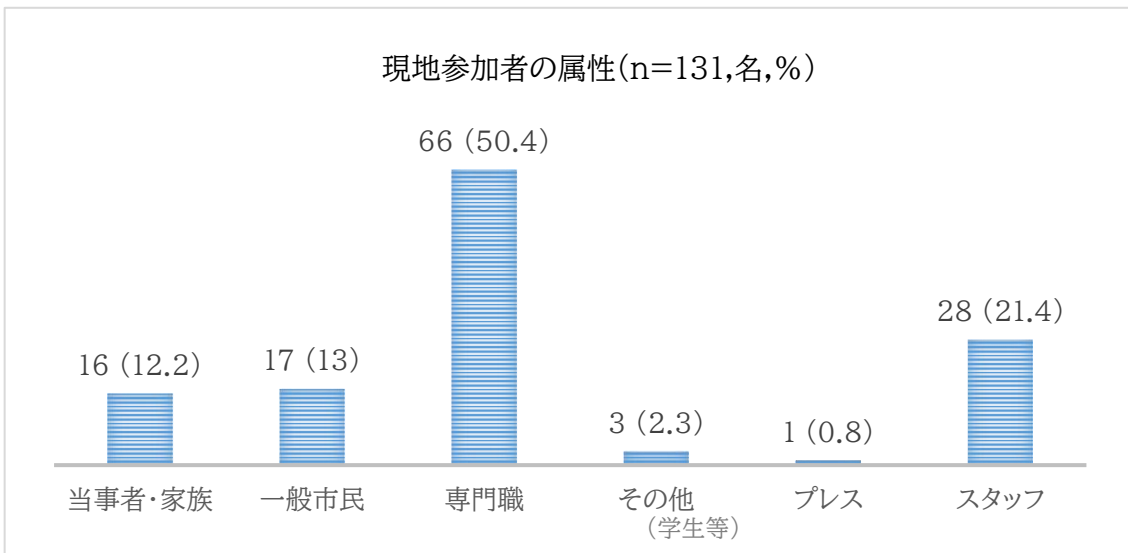
①現地参加者の居住地

現地参加者131名のうち、「市内在住」が108名(82.4%)、「市外在住」が23名(17.6%)であった。



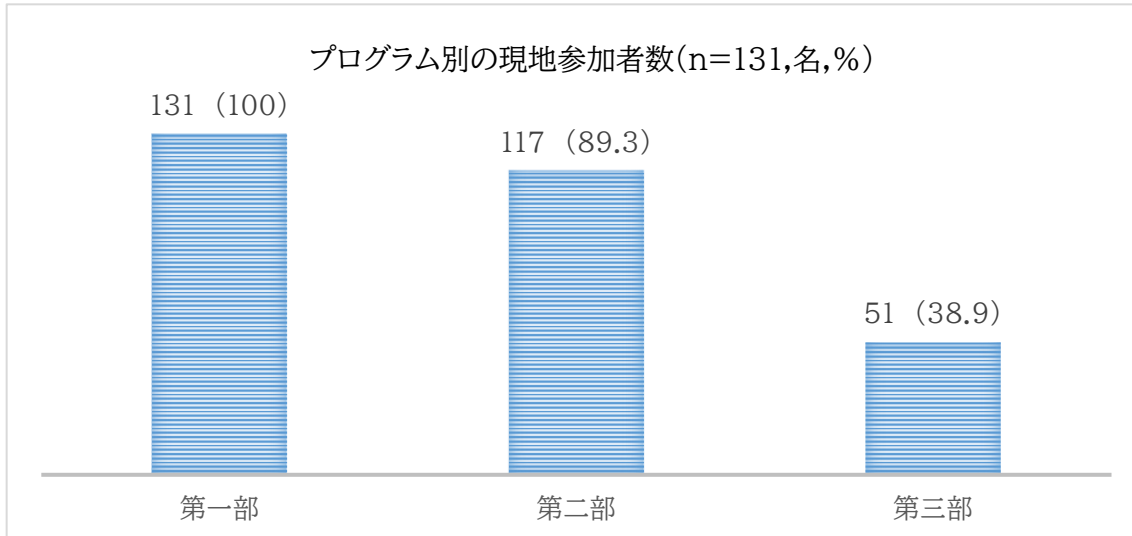
②現地参加者の属性

現地参加者の属性は、「当事者・家族」が16名(12.2%)、「一般市民」が17名(13%)、「専門職」が66名(50.4%)、「その他」が3名(2.3%)、「プレス」が1名(0.8%)、「スタッフ」が28名(21.4%)であった。



③プログラム別の現地参加者数

プログラム別の現地参加者数は、「第一部」が131名(100%)、「第二部」が117名(89.3%)、「第三部」が51名(38.9%)であった。



2 現地参加者の感想等

【当事者・家族】

○学生のプレゼンがあったうえでの当事者のお話だったため、さらによく伝わりました。

当事者ご本人が登壇し、自分の気持ちを自分の力で話すことはとても少ないので良かったです。

○大変なことだけでなく、楽しいことや前向きな内容も聞くことができ本当に感動しました。

【専門職】

○医療的ケア児本人の声、医療的ケア者の家族の声を聴き、生活の様子を垣間見ることができる良い機会になりました。学生の動画での報告も分かりやすくて良かったです。

○実際の医療的ケア児等ご本人やご家族の声を支援者を通してではなく、直接聞くことはとても意味があると感じました。人前で話すことの大変さがある中で話していただいたことに感謝いたします。

○自宅だけではなく、外に出て社会生活を送って生活をする中で、困っていることややりたいこと等、生の声を聞いたことが本当に良かったです。また、保護者目線だけでなく、子どもたち自身が生きる目標を持ち、その声を聞いたことが本当に良かったです。当たり前のようで、子ども本人の人権が尊重されて、子ども中心に社会生活を支援されるためには、本人自身の生の声をどんどんあげてもらいたいです。支援者としてこちら本位の考えではなく、子どもたちと保護者の考えを十分に聞きながら、伴走者となり共に考え支援していきたいと改めて考える良い機会となりました。

○医療的ケアの大変さは当事者や家族等にしか分からない面もあるけれど、私たちにできる小さな力を生かして、今よりもっとよりよい社会になることができるようにしていきたいと思いました。